

## スポーツ史資料：アウグスブルクにおける 「弩射撃大会」(1470年)の開催経費

楠戸 一彦 (広島大学)

Quelle zur Sportgeschichte:

Unkosten zur Abhaltung des "Armbrustschießens"  
im Jahre 1470 in Augsburg

Kazuhiko KUSUDO (Hiroshima University)

### I. はじめに

本研究の課題は、1470年にドイツのアウグスブルクで開催された「弩射撃大会」の準備と開催に要した経費に関する年代記作者 P. H. マイルの記述を邦訳することである。

ドイツ中世後期の諸都市においては、都市当局が「公開射撃大会」——様々な身分と地域からの射手が参加する弩あるいは銃による射撃大会——を実施していた。公開射撃大会の中でも弩による射撃大会は14世紀後半に、また銃による射撃大会は15世紀前半に、各都市で実施されるようになった。例えば、ドイツ南部の都市アウズブルクでは、1370年6月に「よその都市の射手も参加した最初の大きな〔弩による〕射撃大会」が開催され、1430年には「円盤を的にした銃射撃大会」が初めて開催されている<sup>1)</sup>。15世紀後半になると、射撃の競技規則に共通化が見られ、また賞品が高額化し、射撃競技以外の走跳投などの「余興競技」も多様化していった<sup>2)</sup>。例えば、本研究で取り上げる1470年のアウグスブルクでの弩射撃大会では、「100グルデン相当の金メッキ皿」の一等賞を始めとする全部で40の賞品が射撃競技に提供され、この他に競走・跳躍・石投げ・競馬・馬上槍試合・九柱戯などの余興競技も実施された<sup>3)</sup>。

このような公開射撃大会の開催に当たって、都市当局は賞品の準備・競技会場の整備・宿泊所の準備など、大会の開催と運営のために「都市会計」から様々な経費を支出した。しかしながら、公開射撃大会に関する先行研究では、主として射撃競技の方法や余興競技の種類あるいは賞品に関心が向けられ、射撃大会の開催経費に関しては余り関心が向けられなかった<sup>4)</sup>。そこで、本研究では、公開射撃大会の経済的な意義を解明していくための第一歩として、1470年にアウグスブルクで開催された「弩射撃大会」の経費に関する P. H. マイルの記述を邦訳することにする。

ところで、P. H. マイル (1517-1579) はアウグスブルクの参事会役人を務める一方で、「年代記作者、剣術書の作者、歴史的資料の収集家」でもあった<sup>5)</sup>。これらの史料と並んで、彼は「弩と銃の射撃に関する記録」(以下では「記録」と略記)をも残している<sup>6)</sup>。この「記録」には、1509年に開催された弩と銃による公開射撃大会、1560年にシュツトガルトで開催された弩射撃大会、1567年にアウグスブルクで開催された弩射撃大会、これらの大会に関する詳細な記録など、1411年から1579年までの主としてアウグスブルクにおける射撃大会に関する記録が載録されている<sup>7)</sup>。本研究で訳出する1470年の弩射撃

大会の経費に関しては、296丁から299丁において記載されている。

## II. 「弩射撃大会」の開催経費 ——

### P. H. マイルによる『記録』の邦訳

G. フライタークが指摘しているように<sup>8)</sup>、アウグスブルクにおける公開射撃大会は、15・16世紀のドイツ南部の諸都市で開催された射撃大会の模範をなしていた<sup>9)</sup>。特に、アウグスブルク市参事会が1470年7月5日から開催した弩射撃大会は、この都市で開催された公開射撃大会の中でも最初の大規模な大会であった。この大会にはバイエルン公などの貴族を含めて466人の射手が参加し、競技は7月5日から16日まで実施された<sup>10)</sup>。彼らは「100グルデン相当の金メッキ皿」を始めとする34の賞品を懸けて、「125歩」離れた「銀色の紙」の標的に向かって、「43射」を行った<sup>11)</sup>。射撃競技では、「遠来賞」や「命中賞」を含めて全部で40の賞品が提供され、これらの賞品の総額は935グルデンであった<sup>12)</sup>。この大会では射撃競技の他に、射手による「350歩の競走」「片脚での3跳躍」「45ポンドの重さの石投げ」「競馬」が実施され、「下男と下女のための競走」や都市貴族による「単騎馬上槍試合」も実施され、参加者や見学者による「九柱戯」の他に「富くじ」も実施された<sup>13)</sup>。

この弩射撃大会に参事会が支出した経費について、P. H. マイルは以下に訳出するような記録を残している。邦訳に当たって、〔 〕内の語句は訳者の挿入である<sup>14)</sup>。なお、「ヘラー」「シリング」「グルデン」は当時アウグスブルクで使用されていた通貨であり、1シリングが12ヘラーに、1グルデンが240ヘラーに相当した(「プフント」は貨幣ではなく計算単位であり、240プフント・ヘラーが1グルデンに相当した)<sup>15)</sup>。

#### 1470年の弩射撃大会の開催費用に関する

##### P. H. マイルの記録の邦訳

1470年のローゼナウにおける射撃大会。参事会はこの年に、告示された射撃大会と富くじを開催

した。以下は、この書状を配達する使者に対する報酬と酒代であり、他の支出を含む。書状は聖セバスチアンの日〔1月20日〕に送付された。最初は、書状〔を綴じる〕糸のために2シリングと8ヘラー。15通の書状を配達する使者のために1グルデン。バイエルン公への書状〔を届ける使者〕のために1プフント・1シリング。ピュルテンベルクへ9通の書状を〔配達する〕使者のために1プフント・12ヘラー。レーゲンスブルクへ若干の書状を〔配達する使者の〕ために1プフント・1シリング。3通の書状〔を配達する使者〕の酒代に1プフント・1シリング。若干の書状〔を配達する使者〕の酒代に1プフント・6シリング・4ヘラー。若干の書状〔を配達する使者〕の酒代のために10シリング・2ヘラー。若干の書状〔を配達する使者〕の酒代のために1プフント。射手状のために1プフント。若干の書状〔を配達する使者〕の酒代のために1プフント。ランツフトへ2通の書状〔を配達する使者〕のために4シリング。9通の書状〔を配達する使者〕の酒代のために1プフント・1シリング・2ヘラー。8通の書状〔を配達する使者〕の酒代のために5シリング・2ヘラー。〔スイス〕同盟国に44通の書状を配達したフランツ・プラウナーに7グルデン・10シリング。14通の書状〔を配達した使者〕の酒代に2プフント。若干の書状〔を配達した使者〕の酒代に13シリング。エッガーとアイカへ2通の書状〔を配達した使者〕の酒代に12シリング。16通の射手状〔を配達した〕使者の報酬として2グルデン・1プフント・14シリング・4ヘラー。若干の書状〔を配達した〕使者の報酬として8グルデン。若干の書状〔を配達した〕使者の報酬として8グルデン・3シリング。封蝋のために13シリング・2ヘラー。関税官への書状のために1プフント。射撃大会と富くじを告示する278通の射手状を作成した都市書記のコンラートと、書写を助けた5人の書記のために40グルデン<sup>16)</sup>。

旗の費用。富くじの旗を作製した画家コンラート・ボルトに2グルデン。旗に賞品を描いた彼に1グルデン。琥珀織りの旗を織ったヘクトール・ミューリッヒに20グルデン・1プフント・4シリング。65の旗を作製したペーター・ビッシンガーに4プフント・6シリング・4ヘラー。旗と標的小屋に絵を描いた画家ミカエル・フォン・ケッツに2グルデン。旗の縁飾りのために7シリング・4ヘラー。これらの旗を射撃大会〔会場のローゼナウ〕

に運んだ少年のために9 プフント・10 シリング・4 ヘラー。彼らに6 プフント・15 シリング・4 ヘラー。画家たちに13 シリング・2 ヘラー。3つの旗に2 プフント。9つの旗に4 プフント・16 シリング。4つの旗に2 プフント・13 シリング・2 ヘラー。

旗の費用。射撃の公告のためにヘクトール・ミューリッヒに9 グルデン。旗を運んだシェーン・シェフラーの息子に5 シリング・2 ヘラー。旗〔を立てる〕板のために8 シリング。旗を運んだ少年のために9 シリング・2 ヘラー。射撃大会の旗を作製するために8 グルデン・2 プフント。5つの旗を〔作製した〕ブランケン・マーラーに1 グルデン・2 プフント・8 シリング。

標的小屋〔標的を固定するための小屋〕とその他を建築する費用。最初に、ローゼナウに〔建築される〕標的小屋の膠のために11 プフント・14 シリング・4 ヘラー。標的小屋の費用として1 プフント・10 シリング。標的小屋のための支出として3 プフント。標的小屋〔を建設する〕4箱の膠のために1 プフント・4 シリング。標的小屋〔を建設する〕膠のために7 プフント・9 シリング・4 ヘラー。10人の標的係のために12 プフント・15 シリング。標的小屋で矢を集める人のために1 グルデン・1 プフント・4 シリング。標的〔となる円盤〕を銀色に〔着色〕する画家のために15 プフント・12 シリング。〔矢を運ぶ〕桶のために8 シリング。標的係のために4 プフント・7 シリング・2 ヘラー。標的場のために4 プフント・7 シリング・2 ヘラー。標的小屋とその他のために7 プフント・13 シリング・4 ヘラー。さらに、1 グルデン・1 プフント・14 シリング。射撃大会の30の標的のために2 プフント。さらに、2 プフント・1 シリング。標的係のために1 プフント・18 シリング・4 ヘラー。

大工・製箱業者・鍛冶業者・錠前業者への支払いと、木材と板への支出。鍛冶業者に2 プフント・8 シリング。大工の日当と木材と板への支出として5 グルデン・52 プフント・7 シリング・4 ヘラー。鍛冶業者に1 グルデン・4 プフント・6 シリング。水道管を作製するために46 プフント・10 シリング・3 ヘラー。鍛冶業者に42 プフント・13 シリング・4 ヘラー。日当及び様々な木材と板のために42 プフント・13 シリング・4 ヘラー。聖霊降誕祭の夕べの日当と、建設のための様々な費用として52 プフント・13 シリング・2 ヘラー。鍛冶

業者に8 プフント・16 シリング・4 ヘラー。綱製造業者と綱に3 プフント。さらに、17 プフント・3 シリング・4 ヘラー。大工に45 プフント。様々な木材と板及び日当に58 プフント・5 シリング・5 ヘラー。施療院の従者の酒代に10 シリング・4 ヘラー。日当と木工物に46 プフント・14 シリング・1 ヘラー。鍛冶業者に14 プフント・19 シリング・2 ヘラー。さらに、1 プフント・17 シリング・4 ヘラー。銀食器を入れる食器棚を作製する箱製造業者に5 プフント・12 シリング・4 ヘラー。木材と日当、その他に6 グルデン・12 プフント。大工への日当に42 プフント・8 シリング。様々な道具を作製する労働のために21 プフント・2 シリング。警衛のために2 プフント・6 シリング。警衛のために13 プフント・2 シリング・4 ヘラー。警手のために5 プフント・3 シリング・2 ヘラー。その他の費用として21 プフント・4 シリング・2 ヘラー。さらに6 プフント。太鼓手に6 プフント。

射撃大会のために購入したワイン。市長のウリリッヒ・シュヴァルツから、聖ウルバニの日〔5月22日〕に、15 アイメル〔1 アイメルは約60 リットル〕入った2樽のワインを購入する費用として26 グルデン・13 シリング・2 ヘラー。ハンス・クッキングーから14 アイメル入った2樽のワインを購入する費用として24 グルデン・2 プフント・10 シリング。シモン・タークァンクからワインを購入する費用として7 プフント・18 シリング。ウルリッヒ・クーニッヒから10.25 アイメルのワインを購入する費用として26 グルデン・2 プフント・16 シリング。ワインの前払いと貯蔵のために3 プフント・13 シリング・2 ヘラー。ハンス・クッキングーから4樽のワインを購入する費用として29 グルデン・2 プフント・9 シリング・2 ヘラー。ワインの貯蔵のために2 プフント・2 シリング・4 ヘラー。ウルリッヒ・クーニッヒからイタリアワインを購入する費用として43 グルデン。アンドレアス・ヴァイスからイタリアワインを購入する費用として37 グルデン・1 プフント・14 シリング・4 ヘラー。ゲオルグ・メッツガーからイタリアワインを購入する費用として129 グルデン・3 プフント・4 シリング。ワインの運搬と貯蔵庫のために1 グルデン・2 プフント・13 シリング。ワインの運搬のために1 グルデン。

パンとチーズについて。チーズの前払いのために13 グルデン・2 プフント・6 シリング・4 ヘラー。150個のチーズのために15 グルデン・15 シリン

グ。125個のチーズのために12グルデン・1プフント・14シリング・4ヘラー。チーズの運搬と清掃のために1プフント・17シリング・2ヘラー。射撃大会が続く間パンを焼くヨーゼン・タークランクに134グルデン・19シリング・2ヘラー。パンを運搬する人に2プフント・6シリング・4ヘラー。50個のチーズのために6グルデン・17シリング。チーズを取り出す人のために1プフント・14シリング・2ヘラー。

参事会が料理のために屋外に張ったテントについて。調理場での様々な食器のために2プフント。調理場に1プフント・13シリング。ラード。持ち運ぶ30のローソクのために5グルデン。調理場における3つの脇腹肉のために19シリング・4ヘラー。調理場で〔必要な物を〕購入するエアハルト・ゲーリングに56プフント。28個のグラスのために1プフント・14シリング。木製コップのために3プフント。調理場のローソクのために3プフント。調理場で〔必要な物を〕購入するエアハルト・ゲーリングに6グルデン・30プフント。木製食器のために4プフント。木製の杯のために13プフント・5シリング・4ヘラー。木製の杯とコップのために6プフント。飲み屋のために5プフント・9シリング。射撃大会と富くじとのテントで使用する食器を作る桶屋に23プフント・17シリング。

射撃が続く間行われたダンスについて。夜の舞踏会のための19プフント〔1プフントは約490グラム〕のローソクに2プフント・4シリング・4ヘラー。ダンスのための12のローソクに2グルデン。ダンスのための6プフントのローソクに14シリング。ダンスのための69のローソクに1グルデン。ワインに14シリング・4ヘラー<sup>17)</sup>。

大富くじ。富くじの賞品を作成するバルト・マラーに1グルデン。賞品が描かれた衣服の布に12シリング・3ヘラー。〔富札を入れる〕壺に必要な亜麻布に12シリング・3ヘラー。壺に必要な若干の道具に15シリング・2ヘラー。壺に必要な枠を作る箱製造業者に6シリング・4ヘラー。壺に必要な2つの鍵のために6シリング・4ヘラー。壺から札を取り出す2人の書記に29グルデン・1プフント・4シリング。その他の仕事をする人のために27プフント・3シリング。壺の上に掛ける1枚の布のために1プフント・7シリング。〔壺の〕移動に1グルデン。壺に必要な木製の桶のために2プフント。札を切るナイフ1本のために16シリング。〔当たり〕札を読み上げる小屋のため

に2グルデン。壺の中の札を数えて、整えたヴァレンティン・フーバーに2グルデン。

射撃大会の〔賞品の〕ために購入された銀製食器について。金メッキされた小さな十字架のついた11グルデンと9グルデンの杯を作製した金細工師のハンス・テイトシュリンガーに20グルデン。40グルデンと50グルデンの金メッキされた高杯、及び12グルデンの金メッキされた皿を作製したペーター・パニフィングに102グルデン。13グルデンと5グルデンの杯を作製したジルヴァスタン・ナタンに18グルデン。76グルデンの金メッキされた高杯、8グルデンと7グルデンと4グルデンの杯、3グルデンの皿、2グルデンの皿、1グルデンの指輪を作製したアンドレアス・ミュラーに101グルデン。ハンス・シュヴァイエンから8グルデンと10グルデンと16グルデンの杯を購入するために34グルデン。金メッキされた40グルデンの高杯、金メッキされた20グルデンの杯、18グルデンと22グルデンと19グルデンと6グルデンの杯、3グルデンの皿を作製したオックス・ファイゼに128グルデン。30グルデンと36グルデンの金メッキされた高杯と、15グルデンと6グルデンの杯を作製したトーマス・リーガーに87グルデン。25グルデン・3プフント・4シリングの銀製の高杯、30グルデンの金メッキされた高杯、16グルデンと12グルデンの杯、18グルデンの銀製高杯を作製したハンス・マウラーに101グルデン・3プフント・4シリング。20グルデンと7グルデンと6グルデン(2個)と4グルデンの杯を作製したペーター・グラウスに43グルデン。金細工師の職人たちの酒代として、4プフント・16シリング。高杯を作製したルードヴィッヒ・ボスヴァイルに25グルデン。富くじとローゼナウにおける射撃大会のために金メッキされた高杯を3つ作製した金細工師のハンス・ミュラーに189グルデン。

### Ⅲ. 終わりに

P. H. マイルによる1470年の弩射撃大会の経費に関する記述から、アウグスブルク市の参事会はこの大会に対して、表Ⅰに見られるような支出をしたことが明らかになる。

この表に見られるように、1470年の弩射撃大会に要した費用は、1,512グルデン・1,009プフント(ヘラー)・3シリング・6ヘラーであった

表 I. 1470年の弩射撃大会の経費

支出項目	G.	Pf.	β	H.
射手状の作成と配達	66	22	15	6
旗の作製・運搬など	43	35	19	—
標的小屋の建設, 標的・桶の作製など	2	76	10	6
大工・製箱業者・鍛冶業者・錠前業者	12	536	16	11
ワイン	316	29	13	2
パンとチーズ	180	12	9	6
調理場に必要品	11	250	17	8
舞踏会での照明など	3	3	12	8
富くじ	37	32	12	3
賞品の銀製品	842	7	16	4
合計	1512	1009	3	6

G=Gulden, Pf=Pfund, β=Schilling, H=Heller.

(約 2,521グルデン余)<sup>18)</sup>。

しかしながら、都市会計帳簿に基づく P. H. マイルの記述の検証、大会経費の都市会計全体に対する意味、当時の貨幣価値などの諸問題に関しては、今後の課題としたい。

#### 脚 注

- 1) Radlkofer, M., Die Schützengesellschaften und Schützenfeste Augsburgs im 15. und 16. Jahrhundert. In: Zeitschrift des Historischen Vereins für Schwaben und Neuburg. 21 (1894). S. 93—94. [ ] 内は訳者の挿入
- 2) 公開射撃大会における競技規則の共通化、賞品の高額化、余興の多様化などについては、次の拙稿を参照されたい：ドイツ中世後期の都市における「公開射撃大会」の成立と展開、中村敏雄(編)；スポーツ文化論シリーズ①スポーツの伝播・普及、創文企画、1993、201—231.
- 3) Chronik des Hector Müllich. In: Die Chroniken der deutschen Städte vom 14. bis ins 16. Jahrhundert. Bd. 22. S. 232. (以下では「DStChr」と略記)、Radlkofer, M., Ibid., S. 98—99.
- 4) 僅かに、ミュンヘンを事例にした E.フォン・DESTOUCHES の研究が見られるだけである (Destouches, E. von, Münchens Schützenwesen

und Schützenfeste. Historische Festgabe zum Siebenten Deutschen Bundesschießen. München 1881.).

- 5) DStChr. Bd. 7. S. III. 『ドイツ都市年代記』の32巻と33巻には、マイルの年代記が所収されている。
- 6) Mair, P. H., Beschreibung etlicher furnemer Stahel = vnd Puchssenschießen. Cod-Guelph. 1. 2. 1 Aug. 2<sup>o</sup>. In: Herzog-August-Bibliothek Wolfenbüttel. Bl. 296—299. (以下では「Beschreibung」と略記)。
- 7) マイルの『記録』では、各々の射撃大会に関する書写の典拠が明示されていない、この点に関しては、今後の解題としたい。
- 8) Freytag, G., Bilder aus der deutschen Vergangenheit. 2. Bd. 2. Abt. Leipzig o. J. S. 337.
- 9) アウグスブルクの射撃大会に関しては、次の2つの拙稿を参照されたい。15・16世紀のドイツ都市アウグスブルクにおける射手祭、体育史研究、第8号(1991)、1—14頁。スポーツ史資料：アウグスブルクの自由射的祭(1509年)への招待状、スポーツ史研究、第5号(1992)、43—53頁。
- 10) Chronik des Hector Müllich. In: DStChr. Bd. 22. S. 232. 競技会場はアウグスブルクの南西郊外にある「ローゼナウ」という草地に設置された。弩射撃の競技は7月14日に入

- 賞者を決める「決定戦」が実施され、15・16日には居残った射手のための「追加射撃」が実施された。Ibid., S. 228-232.
- 11) 「射手たちは125歩〔の距離で〕射撃をした。射手たちが座って〔射撃をする〕立派な小屋は板の屋根で覆われ、長さが670シュタットシューあり、幅は14シュタットシューあった。射手たちは43射を行った」(Ibid., S. 231.,〔〕内は訳者の挿入)。なお、参加射手は「2分の1グルデン」の参加費を支払った。
- 12) この射撃大会では、射撃の成績に応じて1位(100グルデン)から34位(2グルデン)までの賞品、標的の中心に最も多く命中させた射手に与えられる「命中賞」(10グルデン)、最も遠くから参加した射手に与えられる「遠来賞」(3グルデン)、賞品を獲得出来なかった射手が参加する「騎士射撃」に対する最高「5グルデン相当の杯」を始めとする4つの賞品、の全部で40の賞品が提供された(Ibid., S. 230-231.)。
- 13) Ibid., S. 233., なお、1470年のアウグスブルクにおける弩射撃大会の競技の経過については、稿を改めて論じたい。
- 14) 邦訳に当たって、日付の特定と度量衡に関しては、次の文献を参照した。Grotefend, H., Taschenbuch der Zeitrechnung des deutschen Mittelalters und der Neuzeit. Hannover 1982<sup>12</sup>., Verdenhalven, F., Alte Maße, Münzen und Gewichte aus dem deutschen Sprachgebiet. Neustadt an der Aisch 1968.
- 15) Hegel, C., Über Münze und Preise in Augsburg. In: DStChr. Bd. 5. S.422., Zieschang, K., Vom Schützenfest zum Turnfest. Hamburg 1977. S. 72. アウグスブルクにおける15・16世紀の通貨と貨幣価値に関しては、今後の課題としたい。
- 16) H. ミューリッヒは「羊皮紙の招待状400枚〔の作成〕に100グルデン掛かった」と述べている(Chronik des Hector Müllich. In: DStChr. Bd. 22. S. 232.,〔〕内は訳者の挿入)。射手状の作成数に関するミューリッヒとマイルの間の相違の理由に関しては、今後の課題としたい。なお、この1470年の弩射撃大会の射手状は、筆者が管見する限り、発見されていない。
- 17) 参加射手への接待について、H. ミューリッヒは次のように述べている：「常に、イタリアワインとチーズとパンが十分に提供され、常に新しい木製の杯が用意されていた。毎日、250マスのイタリアワインが提供された。毎日、40人の武装した〔警備の〕者が〔競技会場である〕ローゼナウにいた。その他に、30のテントが至る所に張られた。これらのテントの中では、食事をしたり、酒を飲んだり、お金を賭けた賭博が行われた。射手の小屋は、日が当たらないように、日没とは逆の方向に向けられていた。射手たちは美しいダンスもおこなった」(Ibid., S. 233).
- 18) H. ミューリッヒは、1470年の射撃大会のために「都市が支出した合計は、2,208グルデンである」と述べている(Ibid., S. 232.)。また、M. ラードルコファーによれば、この大会に関して参事会は「400グルデンの余剰金」を得ていた(Radlkofer, M., Ibid., S. 99.)。これらの点に関しては、1470年の「都市会計帳簿」に基づく確認が必要であり、今後の課題としたい。